

結 晶 材 料 工 学 専 攻

＜前期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期
基礎科目	セミナー 講義・演習	結晶物理学基礎	竹内 恒博 准教授	2	1年前期
		結晶化学基礎	木村 真 准教授, 坂本 渉 准教授, 菊田 浩一 准教授	2	2年前期
結晶材料学基礎		浅野 秀文 教授, 宇治原 徹 准教授	2	1年前期	
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	結晶デバイスセミナー1A	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	1年前期
		結晶デバイスセミナー1B	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	1年後期
		結晶デバイスセミナー1C	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	2年前期
		結晶デバイスセミナー1D	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	2年後期
		ナノ材料デバイスセミナー1A	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 瀧 真悟 助教	2	1年前期
		ナノ材料デバイスセミナー1B	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 瀧 真悟 助教	2	1年後期
		ナノ材料デバイスセミナー1C	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 瀧 真悟 助教	2	2年前期
		ナノ材料デバイスセミナー1D	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 瀧 真悟 助教	2	2年後期
		電子物性工学セミナー1A	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	1年前期
		電子物性工学セミナー1B	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	1年後期
		電子物性工学セミナー1C	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	2年前期
		電子物性工学セミナー1D	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	2年後期
		磁気物性機能学セミナー1A	浅野 秀文 教授	2	1年前期
		磁気物性機能学セミナー1B	浅野 秀文 教授	2	1年後期
		磁気物性機能学セミナー1C	浅野 秀文 教授	2	2年前期
		磁気物性機能学セミナー1D	浅野 秀文 教授	2	2年後期
		機能結晶化学セミナー1A	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	1年前期
		機能結晶化学セミナー1B	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	1年後期
	機能結晶化学セミナー1C	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	2年前期	
	機能結晶化学セミナー1D	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	2年後期	
	材料設計化学セミナー1A	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	1年前期	
	材料設計化学セミナー1B	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	1年後期	
	材料設計化学セミナー1C	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	2年前期	
	材料設計化学セミナー1D	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	2年後期	
	結晶物性工学セミナー1A	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	1年前期	
	結晶物性工学セミナー1B	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	1年後期	
	結晶物性工学セミナー1C	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	2年前期	
	結晶物性工学セミナー1D	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	2年後期	
	機能物質工学セミナー1A	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	1年前期	
	機能物質工学セミナー1B	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	1年後期	
	機能物質工学セミナー1C	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	2年前期	
	機能物質工学セミナー1D	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	2年後期	
	講 義	半導体物性工学特論	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師	2	1年前期
		半導体デバイス工学特論	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師	2	2年前期
		半導体ナノ材料学特論	宇治原 徹 准教授, 竹田 美和 教授	2	1年前期, 2年前期
		ナノデバイス工学特論	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授	2	1年後期, 2年後期
		電子物性学特論 I	生田 博志 教授, 竹内 恒博 准教授	2	1年前期
		電子物性学特論 II	竹中 康司 准教授	2	2年前期
		磁気物性機能学特論 I	浅野 秀文 教授	2	1年後期
		磁気物性機能学特論 II	浅野 秀文 教授	2	2年前期
		機能結晶化学特論 I	木村 真 准教授	2	1年前期
		機能結晶化学特論 II	大槻 主税 教授	2	2年後期
材料設計化学特論 I		鳥本 司 教授, 菊田 浩一 准教授	2	1年後期	
材料設計化学特論 II		鳥本 司 教授, 菊田 浩一 准教授	2	2年後期	
結晶物性工学特論 I		田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師	2	1年前期	
結晶物性工学特論 II		田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師	2	2年前期	
機能物質工学特論 I		余語 利信 教授	2	1年後期	
機能物質工学特論 II		坂本 渉 准教授	2	2年後期	
構造物性学特論		西堀 英治 准教授	2	1年前期	
光物性学特論		中村 新男 教授	2	2年後期	
磁性体工学特論		網島 滋 教授, 岩田 聡 教授, 加藤 剛志 准教授	2	1年後期, 2年後期	
高分子構造物性論		松下 裕秀 教授, 高野 敬志 准教授	2	1年前期	
電気化学プロセス特論		奥戸 正純 教授, 市野 良一 准教授	2	2年前期	
機械材料強度学特論		巨 陽 教授	2	1年前期	
結晶材料特別講義1A		非常勤講師 (結晶)	1	1年前期	
結晶材料特別講義1B		非常勤講師 (結晶)	1	1年後期	
結晶材料特別講義1C	非常勤講師 (結晶)	1	2年前期		
結晶材料特別講義1D	非常勤講師 (結晶)	1	2年後期		
実 験 ・ 演 習	結晶デバイス工学特別実験及び演習A	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	1	1年前期	
	結晶デバイス工学特別実験及び演習B	財満 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	1	1年後期	
	ナノ材料デバイス特別実験及び演習A	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 瀧 真悟 助教	1	1年前期	
	ナノ材料デバイス特別実験及び演習B	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 瀧 真悟 助教	1	1年後期	
	電子物性工学特別実験及び演習A	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	1	1年前期	
	電子物性工学特別実験及び演習B	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	1	1年後期	
	磁気物性機能学特別実験及び演習A	浅野 秀文 教授	1	1年前期	
	磁気物性機能学特別実験及び演習B	浅野 秀文 教授	1	1年後期	

科目区分		授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期
主 専 攻 科 目	主 分 野 科 目	実 験 ・ 演 習	機能結晶化学特別実験及び演習A	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	1	1年前期
			機能結晶化学特別実験及び演習B	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	1	1年後期
			材料設計化学特別実験及び演習A	島本 司 教授, 木村 眞 准教授, 岡崎 健一 助教	1	1年前期
			材料設計化学特別実験及び演習B	島本 司 教授, 木村 眞 准教授, 岡崎 健一 助教	1	1年後期
			結晶物性工学特別実験及び演習A	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	1	1年前期
			結晶物性工学特別実験及び演習B	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	1	1年後期
			機能物質工学特別実験及び演習A	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	1	1年前期
			機能物質工学特別実験及び演習B	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	1	1年後期
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演 習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目				
総合工学科目	高度総合工学創造実験	松村 年郎 教授	3	1年前期後期, 2年前期後期		
	研究インターンシップ	田中 英一 教授	2~4	1年前期後期, 2年前期後期		
	最先端理工学特論	田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	最先端理工学実験	山根 隆 教授, 田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	コミュニケーション学	古谷 礼子 准教授	1	1年後期, 2年後期		
	実践科学技術英語	石田 幸男 教授	2	1年前期, 2年前期		
	ベンチャービジネス特論Ⅰ	田淵 雅夫 准教授	2	1年前期, 2年前期		
	ベンチャービジネス特論Ⅱ	田淵 雅夫 准教授, 枝川 明敬 客員教授	2	1年後期, 2年後期		
	学外実習A	各教員(結晶)	1	1年前期後期, 2年前期後期		
学外実習B	各教員(結晶)	1	1年前期後期, 2年前期後期			
他研究科等科目		当該専攻とは異なる分野に関する学部科目、あるいは他研究科、他大学院で開講されている授業科目で指導教員並びに専攻長が認めた科目				
研究指導						
履修方法及び研究指導						
<p>1. 以下の一〜四の各項を満たし、合計30単位以上</p> <p>一 主専攻科目：</p> <p>イ 基礎科目2単位以上</p> <p>ロ 主分野科目の中から、セミナー8単位、実験・演習2単位を含む12単位以上</p> <p>二 副専攻科目の中から2単位以上</p> <p>三 総合工学科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>四 他研究科等科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>						

結 晶 材 料 工 学 専 攻

＜後期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	結晶デバイスセミナー2A	財清 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	1年前期
		結晶デバイスセミナー2B	財清 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	1年後期
		結晶デバイスセミナー2C	財清 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	2年前期
		結晶デバイスセミナー2D	財清 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	2年後期
		結晶デバイスセミナー2E	財清 鎮明 教授, 中塚 理 講師, 坂下 満男 助教, 近藤 博基 助教	2	3年前期
		ナノ材料デバイスセミナー2A	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 澁 真悟 助教	2	1年前期
		ナノ材料デバイスセミナー2B	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 澁 真悟 助教	2	1年後期
		ナノ材料デバイスセミナー2C	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 澁 真悟 助教	2	2年前期
		ナノ材料デバイスセミナー2D	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 澁 真悟 助教	2	2年後期
		ナノ材料デバイスセミナー2E	竹田 美和 教授, 田淵 雅夫 准教授, 宇治原 徹 准教授, 澁 真悟 助教	2	3年前期
		電子物性工学セミナー2A	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	1年前期
		電子物性工学セミナー2B	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	1年後期
		電子物性工学セミナー2C	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	2年前期
		電子物性工学セミナー2D	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	2年後期
		電子物性工学セミナー2E	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2	3年前期
		磁気物性機能学セミナー2A	浅野 秀文 教授	2	1年前期
		磁気物性機能学セミナー2B	浅野 秀文 教授	2	1年後期
		磁気物性機能学セミナー2C	浅野 秀文 教授	2	2年前期
		磁気物性機能学セミナー2D	浅野 秀文 教授	2	2年後期
		磁気物性機能学セミナー2E	浅野 秀文 教授	2	3年前期
		機能結晶化学セミナー2A	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	1年前期
		機能結晶化学セミナー2B	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	1年後期
		機能結晶化学セミナー2C	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	2年前期
		機能結晶化学セミナー2D	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	2年後期
		機能結晶化学セミナー2E	大槻 主税 教授, 菊田 浩一 准教授, 川内 義一郎 助教	2	3年前期
		材料設計化学セミナー2A	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	1年前期
		材料設計化学セミナー2B	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	1年後期
		材料設計化学セミナー2C	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	2年前期
		材料設計化学セミナー2D	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	2年後期
		材料設計化学セミナー2E	鳥本 司 教授, 木村 真 准教授, 岡崎 健一 助教	2	3年前期
		結晶物性工学セミナー2A	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	1年前期
		結晶物性工学セミナー2B	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	1年後期
		結晶物性工学セミナー2C	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	2年前期
		結晶物性工学セミナー2D	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	2年後期
		結晶物性工学セミナー2E	田中 信夫 教授, 齋藤 晃 講師, 山崎 順 助教	2	3年前期
機能物質工学セミナー2A	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	1年前期		
機能物質工学セミナー2B	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	1年後期		
機能物質工学セミナー2C	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	2年前期		
機能物質工学セミナー2D	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	2年後期		
機能物質工学セミナー2E	余語 利信 教授, 坂本 渉 准教授, 守谷 誠 助教	2	3年前期		
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目			
総合工科学目		実験指導体験実習1	松村 年郎 教授	1	1年前期後期 2年前期後期
		実験指導体験実習2	山根 隆 教授, 田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期 2年前期後期
他研究科等科目		当該専攻とは異なる分野に関する学部科目、あるいは他研究科、他大学院で開講されている授業科目で指導教員並びに専攻長が認めた科目			
研究指導					
履 修 方 法 及 び 研 究 指 導					
<p>1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、以下のイ～ロを満たすこと</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上</p> <p style="margin-left: 20px;">ロ 総合工科学目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>					

7. 結晶材料工学専攻

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	結晶物理学基礎 (2単位) 結晶材料工学専攻 1年前期
教員	竹内 恒博 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>固体物理学の基礎を統計力学・量子力学の基礎と共に理解する。【達成目標】1. 古典統計と量子統計の基礎。2. 逆空間の有用性。および、3. 固体内におけるフォノンおよび電子のエネルギーと運動量を理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>電磁気学、解析力学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 多粒子系の統計力学による取り扱い <ol style="list-style-type: none"> 1-1 気体の分子運動論 1-2 状態数と状態密度 1-3 スターリングの公式とエントロピー 1-4 統計集団 周期構造、逆格子、回折現象 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 結晶格子 2-2 逆格子 2-3 X線回折と結晶構造の決定 2-4 ブラベー格子と結晶構造の分類 フォノン <ol style="list-style-type: none"> 3-1 結晶の振動(フォノン) 3-2 熱物性 電子論 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 ソンマーフェルト理論 4-2 周期場における電子 4-3 バンド構造と電気伝導現象 <p>●教科書</p> <p>阿部豊 統計力学 (裳華房) アシュクロフト・マーミン 固体物理の基礎(上1) (吉岡書店)</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>課題レポート(70点)と簡単な筆記試験(30点)を行う。55点以上を合格とする。【履修条件】原則として学部で固体物理学の単位を取得していない学生。【質問への対応】基本的には授業終了時に対応する。【連絡先】内線4461, takeuchi@nuap.nagoya-u.ac.jp</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	結晶化学基礎 (2単位) 結晶材料工学専攻 2年前期
教員	木村 真 准教授 坂本 渉 准教授 菊田 浩一 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>半導体や誘電体、磁気デバイス及び薄膜などの工学に用いられる材料と方法について、無機化学、物理化学と有機化学の立場から物理系の学生に理解されるよう授業をする。基礎的な化学について学び、化学的手法による材料合成、とくに、無機化学および電気化学とこれを用いる機能性材料合成と物性評価に関する理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>無機化学、物理化学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 元素と化学結合 2. 無機結晶性固体 3. 材料の機能発現因子 4. 機能性結晶材料 5. 電気化学系とポテンシャル 6. 電極反応 7. 光触媒と太陽電池 8. 化学的手法によるナノ材料合成 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>ベーシック電気化学(化学同人) 大塚利行、加納健司、桑畑 進 著</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>授業中の小テスト(50%)およびレポート(50%)で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	浅野 秀文 教授 宇治原 徹 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>金属材料をはじめ様々な材料プロセスに有用な状態図とその活用法、及び材料の電子物性について学ぶ。達成目標 1. 状態図の読み方を理解する。 2. 相分離構造と状態図の関連を理解する。 3. ナノ構造における電子物性を理解する。 4. 磁気と電気伝導の交わりを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>量子力学A, 統計力学A, 物理化学, 結晶物理学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多元系の自由エネルギーについて 2. 二元系状態図 3. 相転移と相分離構造 4. 磁気と電気伝導の基礎 5. 薄膜とナノ構造 6. 磁気抵抗効果とスピントロニクス <p>●教科書</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>講義における発表とそれに対する質疑応答、及びレポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	結晶デバイスセミナー1A (2単位) 応用物理学分野 1年前期
教員	結晶材料工学専攻 1年前期 財満 鑽明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>本セミナーは、輪講と雑誌によって構成される。輪講は、半導体デバイスおよび半導体材料の研究を行うために必要な半導体物性や固体物理の基礎を習得することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。</p> <p>達成目標 半導体材料の諸特性について理解できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エネルギーバンドの特性 <ol style="list-style-type: none"> 1-1. エネルギーバンド計算 1-2. エネルギーバンドにおける状態密度 1-3. 電子移動度と有効質量 1-4. バンドモデルと電気的特性 1-5. 実際の結晶におけるエネルギーバンド 1-6. エキシトンとポラロン 1-7. バンドと結合(電気伝導性、結合長) 2. キャリア輸送 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 渡来を用いた粒子移動の記述 2-2. ボルツマン方程式とその解 2-3. 緩和時間近似における電気伝導率 2-4. 半導体と金属の電気伝導率 2-5. 電子による熱伝導率 2-6. 熱効果 <p>●教科書</p> <p>R. H. Bube, "Electronic Properties of Crystalline Solids" 等</p> <p>●参考書</p> <p>必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。 参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>本セミナーは、輪講と雑誌会によって構成される。輪講は、半導体デバイスにおける電子輸送や半導体表面・界面で発現する諸現象等を基礎物理に基づいて理解することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半導体デバイスの基本的動作を理解できる。 2. 実際の半導体デバイスにおける問題点を理解できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電気回路		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理想MISダイオード 2. 表面空間電荷領域 3. 理想MISダイオードの特性 4. Si-SiO₂ MOSダイオード 5. 界面単位電荷 6. 界面単位密度分布の測定法：キャパシタンス法 7. 界面単位密度分布の測定法：コンダクタンス法 8. MISダイオードの等価回路 9. 酸化膜中の電荷 10. 仕事関数差の影響 <ol style="list-style-type: none"> 1.1. 反転層キャリアの振舞い 1.2. 絶縁破壊現象 1.3. 電気伝導機構 		
●教科書		
S. M. Sze, "Physics of Semiconductor Devices", (John Wiley & Sons)等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー1C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>本セミナーは、輪講と雑誌会によって構成される。輪講は、半導体デバイスおよび半導体材料の研究を行うために必要な半導体物性や固体物理の基礎を習得することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。</p> <p>達成目標</p> <p>半導体材料の諸特性について理解できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. エネルギーバンドの特徴 エネルギーバンド計算 エネルギーバンドにおける状態密度 電子移動度と有効質量 バンドモデルと電気的特性 実際の結晶におけるエネルギーバンド エキシトンとポーラロン バンドと結合（電気伝導性、結合長） 2. キャリア輸送 波束を用いた電子移動の記述 ボルツマン方程式とその解 緩和時間近似における電気伝導率 半導体と金属の電気伝導率 電子による熱伝導率 熱電効果 		
●教科書		
R. H. Dube, "Electronic Properties of Crystalline Solids" 等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>本セミナーは、輪講と雑誌会によって構成される。輪講は、半導体デバイスにおける電子輸送や半導体表面・界面で発現する諸現象等を基礎物理に基づいて理解することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半導体デバイスの基本的動作を理解できる。 2. 実際の半導体デバイスにおける問題点を理解できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電気回路		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理想MISダイオード 2. 表面空間電荷領域 3. 理想MISダイオードの特性 4. Si-SiO₂ MOSダイオード 5. 界面単位電荷 6. 界面単位密度分布の測定法：キャパシタンス法 7. 界面単位密度分布の測定法：コンダクタンス法 8. MISダイオードの等価回路 9. 酸化膜中の電荷 10. 仕事関数差の影響 <ol style="list-style-type: none"> 1.1. 反転層キャリアの振舞い 1.2. 絶縁破壊現象 1.3. 電気伝導機構 		
●教科書		
S. M. Sze, "Physics of Semiconductor Devices", (John Wiley & Sons)等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>半導体機能材料およびデバイスに関する参考図書および文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体材料学、知能材料学、薄膜・結晶成長論、量子力学Aなど（全てが必要という訳ではありません）		
●授業内容		
半導体物理学、半導体材料学および半導体デバイスの基礎と応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
輪講分担およびレポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー1B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスセミナー1Aに同じ	
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイスセミナー1A	
●授業内容	ナノ材料デバイスセミナー1Aに続く	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	輪講分担とレポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー1C	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスセミナー1Aに同じ	
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイスセミナー1Aと1B	
●授業内容	ナノ材料デバイスセミナー1Bに続く	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	輪講分担およびレポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー1D	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスセミナー1A～1Cのまとめ	
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイスセミナー1A, 1B, 1C	
●授業内容	ナノ材料デバイスセミナー1A～1Cをまとめる	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	輪講分担とレポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー1A	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	種々の機能性材料が発見する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な基礎学力を身につけ、種々の実験手法を学ぶとともに、特徴的な電子物性のいくつかを理解し、説明できることを目標とする。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、熱・統計力学、電磁気学、金属電子論、材料熱力学、回折結晶学、物性物理学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金 	
●教科書	なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。	
●参考書	金属電子論上・下、水谷字一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉岡光他（培風館） 他は随時指定する	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー1B	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な基礎学力を身につけ、種々の実験手法を学ぶとともに、特徴的な電子物性のいくつかを理解し、説明できることを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷宇一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー1C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な基礎学力を身につけるとともに、自身の研究成果の解析に適用する方法を習得することを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷宇一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な基礎学力を身につけるとともに、自身の研究成果の解析に適用する方法を習得することを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷宇一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
材料物性と磁気物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。磁気物性学を中心に最近の世界の研究、材料開発動向について学ぶ。達成目標 1) 材料物性の基礎理論を説明できる。 2) 磁気物性の物理的概念を説明できる。 3) 磁性材料研究の世界の動向の概略を説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物理学、磁性材料学		
●授業内容		
1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎理論と実験法 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎理論と実験法 3. 磁性超薄膜・磁性ナノ粒子の作製 4. 結晶構造解析 5. 表・界面構造解析 6. 磁気物性の先端的研究課題		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する		
●参考書		
達成目標に対する評価は同等である。課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー1a	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>材料物性と磁気物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。磁気物性学に関し、最近の世界の研究・材料開発動向について学ぶ。</p> <p>達成目標 1) 固体の基礎的磁性理論を説明できる。 2) 磁気物性の基礎データの理論解析ができる。 3) 物性研究の世界の動向の概略を説明できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎理論と実験法 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎理論と実験法 3. 超薄膜・ナノ粒子の作製 4. 結晶構造解析 5. 表・界面構造解析 6. 磁気物性の先端的研究課題 		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー1c	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>材料物性と磁気物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。磁気物性学を中心に最近の世界の研究・材料開発動向について学ぶ。</p> <p>達成目標 1) 材料物性と磁気物性に関する各種データの理論解析ができる。 2) 磁気物性研究の研究発表ができる。 3) 磁気物性の基礎的研究課題について提案できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1B		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎理論と実験法 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎理論と実験法 3. 超薄膜・ナノ粒子の作製 4. 結晶構造解析 5. 表・界面構造解析 6. 磁気物性の先端的研究課題 		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー1D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>材料物性と磁気物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。磁気物性学を中心に最近の世界の研究・材料開発動向について学ぶ。</p> <p>達成目標 1) 材料物性と磁気物性の工業的応用について説明できる。 2) 磁気物性工学の将来像について意見を述べることが出来る。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1C		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎理論と実験法 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎理論と実験法 3. 超薄膜・ナノ粒子の先進的作製法 4. 結晶構造解析法 5. 表・界面構造解析法 6. 磁気物性の先進的研究課題 		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 1A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>人工骨や人工歯を開発する上で必要となる無機固体材料(セラミックス)の生体機能について基礎的に理解するとともに、その原理を応用してセラミック医用材料(バイオマテリアル)の創製に必要な技術について議論を行い、医用セラミックスの開発に関する知識と研究手法を修得する。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. バイオマテリアル(Biomaterials)の必要性 2. バイオマテリアルの定義と要求される性能 3. セラミックスの定義と焼結現象 4. セラミックスの合成プロセス 5. セラミックスの構造と物性 		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 1B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
人工骨や人工歯を開発する上で必要となる無機固体材料（セラミックス）の生体機能について基礎的に理解するとともに、その原理を応用してセラミック医用材料（バイオマテリアル）の創製に必要な技術について議論を行い、医用セラミックスの開発に関する知識と研究手法を修得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
1. 相図とガラスの形成 2. ガラスの構造と物性 3. 液相からの結晶の析出 4. 結晶化ガラスの合成方法 5. 生体内におけるガラスの表面反応		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 1C	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
人工骨や人工歯を開発する上で必要となる無機固体材料（セラミックス）の生体機能について基礎的に理解するとともに、その原理を応用してセラミック医用材料（バイオマテリアル）の創製に必要な技術について議論を行い、医用セラミックスの開発に関する知識と研究手法を修得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
1. 体液とガラスの反応プロセスの解析手法 2. 生体活性なバイオマテリアルの設計 3. 生体模倣（バイオミメティック）の考え方		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 1D	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
人工骨や人工歯を開発する上で必要となる無機固体材料（セラミックス）の生体機能について基礎的に理解するとともに、その原理を応用してセラミック医用材料（バイオマテリアル）の創製に必要な技術について議論を行い、医用セラミックスの開発に関する知識と研究手法を修得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
1. 有機-無機ハイブリッド 2. セラミックスを用いる癌治療 3. 再生医療における生体材料の役割		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 1A	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	鳥本 司 教授 木村 眞 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率的な良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を精読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理解し、説明できる。 2. 電気化学的手法に基づき、エネルギー変換システムを具体的に設計できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学、電気化学、触媒化学		
●授業内容		
1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計		
●教科書		
精読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	鳥本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率的な良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を精読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理解し、説明できる。 2. 電気化学的手法に基づき、エネルギー変換システムを具体的に設計できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学, 電気化学, 触媒化学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計 		
●教科書		
<p>精読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>		
●参考書		
●成績評価の方法		
<p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 1C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	鳥本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率的な良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を精読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理解し、説明でき、目的とする特性を有する機能材料を設計できる。 2. 電気化学的手法に基づき、エネルギー変換システムを具体的に設計できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学, 電気化学, 触媒化学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計 		
●教科書		
<p>精読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>		
●参考書		
●成績評価の方法		
<p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	鳥本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率的な良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を精読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理解し、説明でき、目的とする特性を有する機能材料を設計できる。 2. 電気化学的手法に基づき、エネルギー変換システムを具体的に設計できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学, 電気化学, 触媒化学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計 		
●教科書		
<p>精読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p>		
●参考書		
●成績評価の方法		
<p>セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶物性工学セミナー 1A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>ナノ結晶材料の作成、評価、その応用について、英文の原著論文を読みながら、セミナー形式で説明を行う。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
凝縮物性学特論I, 凝縮物性学特論II		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ナノ材料の分類 2. ナノ材料の作成法 3. ナノ材料の評価法 4. ナノ材料の応用 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭詰問		

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	結晶物性工学セミナー1B (2単位)
対象専攻・分野	結晶材料工学専攻
開講時期	1年後期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
凝縮系物質における相転移現象および非線型非平衡現象を理解するために必要な統計物理学を修得する。微結晶の原子構造と電子構造を電子顕微鏡、電子回折、電子エネルギー損失分光を用いて解析する方法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容	
1. 相転移と臨界現象 2. 結晶および液晶の相転移 3. 微結晶の原子構造 4. 微結晶の電子構造	
●教科書	
●参考書	
統計物理学：ランダウ（岩波書店） 固体物理学：キッテル（丸善）	
●成績評価の方法	
口頭詰問	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	結晶物性工学セミナー1C (2単位)
対象専攻・分野	結晶材料工学専攻
開講時期	2年前期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
結晶性試料の高分解能電子顕微鏡法、電子回折法の理論的基礎の習得を目的として、原著論文を読みながらセミナー形式で説明する。	
●バックグラウンドとなる科目	
結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容	
1. 高分解能電子顕微鏡法 2. 電子回折法	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口頭詰問	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	結晶物性工学セミナー1D (2単位)
対象専攻・分野	結晶材料工学専攻
開講時期	2年後期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
凝縮系物質における相転移現象および非線型非平衡現象を理解するために必要な統計物理学を修得する。微結晶の原子構造と電子構造を電子顕微鏡、電子回折、電子エネルギー損失分光を用いて解析する方法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容	
1. 相転移と臨界現象 2. 結晶および液晶の相転移 3. 微結晶の原子構造 4. 微結晶の電子構造	
●教科書	
●参考書	
統計物理学：ランダウ（岩波書店） 固体物理学：キッテル（丸善）	
●成績評価の方法	
口頭詰問	

課程区分	前期課程	前期課程
科目区分	主専攻科目	
授業形態	セミナー	
	機能物質工学セミナー1A (2単位)	
対象専攻・分野	応用化学分野	結晶材料工学専攻
開講時期	1年前期	1年前期
教員	余話 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能性材料の合成と物性に関する文献を輪読し、この分野の研究の進め方、まとめ方などについて修得するとともに、関連分野の研究動向についても理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、有機化学、無機材料化学、無機合成化学、物理化学		
●授業内容		
1. 機能性材料の合成 2. 機能性材料の物性		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 1B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 1Aに引き続き、機能性材料の合成と評価に関する文献を輪読し、この分野の研究の進め方、まとめ方などについて修得するとともに、関連分野の研究動向についても理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 1A		
●授業内容		
1. 機能性材料の合成 2. 機能性材料の物性		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 1C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 1Bに引き続き、機能性材料の合成と物性ならびに応用に関する文献を輪読し、この分野の研究の理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 1B		
●授業内容		
1. 機能性材料の合成 2. 機能性材料の物性 3. 機能性材料の応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 1D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 1Cに引き続き、機能性材料の合成と物性ならびに応用に関する文献を輪読し、この分野の研究の理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 1C		
●授業内容		
1. 機能性材料の合成 2. 機能性材料の物性 3. 機能性材料の応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	半導体物性工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	財満 謙明 教授 中塚 理 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
半導体デバイスにおける物性論と製造プロセスに関わる物理現象について基礎から理解し、半導体中の電気伝導およびプロセス物理について習得する。前半では、エネルギーバンド理論からキャリア輸送の原理、後半では基本的半導体プロセスである酸化、拡散、固相反応について学ぶ。		
達成目標 1. 半導体中のキャリア輸送を、結晶構造、エネルギーバンド構造と関連付けて議論できる。 2. 基本的な半導体プロセスをその物理現象と絡めて理解し、説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
熱力学、統計力学A, B, 物性物理学1-4, 電気工学通論第1, 電気工学通論第2		
●授業内容		
1. 半導体物性の基礎 2. エネルギーバンド理論 3. 有効質量 4. 結晶欠陥と不純物 5. 半導体ヘテロ構造と結晶成長 6. 結晶歪みと移動度 7. 不純物散乱とフォノン 散乱 8. 半導体プロセスの基礎 9. 酸化過程 10. 不純物拡散 11. 界面固相反応		
●教科書		
講義資料を適時配布する。		
●参考書		
講義の進行に合わせて適宜紹介する。		
●成績評価の方法		
口頭試問及び課題レポート 達成目標に対する評価の重みは同等である。 課題レポートで評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	
	半導体デバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年前期	
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
MOS構造の基本原理と半導体デバイスにおける電子輸送について、基礎原理から理解し、デバイス動作特性について習得する。前半では、LSIの基本素子であるMOSFETの動作原理、後半では輸送現象の基本概念である平衡状態や寿命、緩和時間、Boltzmann輸送方程式などについて学び、極微細デバイスにおける種々の現象や課題について理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、物性物理学、電磁気学、熱・統計力学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. トランジスタの基本式と半導体物性の概略 2. MOS特性 3. MOSFETの動作原理 4. サブスレショルド特性 5. 基板効果 6. 短チャネル効果と速度飽和・オーバーシュート効果 7. SOIと歪み効果 8. 極微細半導体デバイスにおける電子輸送 9. 一電子Schrodinger方程式と散乱マトリックス 10. 平衡の基本法則と定常状態 11. マスター方程式 12. 寿命と緩和時間 13. 一粒子的輸送 14. 集団的輸送 15. 多粒子系の輸送 		
●教科書		
教科書は使用しないが、プリントを配付する。プリントや参考図書による復習を十分に行なうこと。参考図書は、初回の講義に紹介する。		
●参考書		
半導体の物理：御子栄宣夫（培風館）、最新VLSIの基礎：タウア・ニン（丸善）、Physics of Semiconductor Devices: Sze (John Wiley & Sons)		
●成績評価の方法		
目標達成に対する評価の重みは同等である。レポートにより達成度を評価し、100点満点で55点以上を合格とする。関連論文を幾つか読み、復習を十分行うこと。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	半導体ナノ材料学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期 2年前期	結晶材料工学専攻 1年前期 2年前期
教員	宇治原 徹 准教授 竹田 美和 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
半導体材料をバンド理論の観点から考え、実際のバンド構造から半導体材料の性質を読み取る。バンド理論とバンド構造の計算の実際について学習する 達成目標 1. バンド構造の起源について理解できる。 2. 数種類のバンド構造理論の仮定と結果の違いが理解できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体材料学、光機能材料学(知能材料学)、量子力学A、結晶物理学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ブロウホの定理(Bloch theorem) 2. クローニヒペニモデル(Kronig-Penny model) 3. バンド理論(Band theory) 		
●教科書		
プリント配布		
●参考書		
半導体の物理(御子栄、培風館)		
●成績評価の方法		
講義における発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	ナノデバイス工学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期 2年後期	結晶材料工学専攻 1年後期 2年後期
教員	竹田 美和 教授 田岡 雅夫 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノレベルの半導体/半導体複合構造および半導体/絶縁体複合構造などにおける多重の電子状態を利用した高い量子機能とそのデバイス応用について論ずる。実現するための材料とその作製法およびそれらの構造と特性の解析法についても言及する		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体ナノ材料学特論		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 半導体超格子の電子状態 2. 半導体超格子の光学的特性 3. ナノ複合構造のデバイス 4. ナノ複合構造の作製法 5. ナノ複合構造の解析 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポートや授業中に行う課題演習		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	電子物性学特論I (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	生田 博志 教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
金属および半導体の電気輸送現象に関する基礎を学ぶとともに、機能性材料が発現する種々の物性に対する理解を深める。前半の講義では基本的な理論に基づいて電子輸送現象を取扱う方法を学習する。後半では超伝導体の磁気的性質を中心に講義を行い、G-L理論などの現象論に基づいてその理解を深める。本講義を通して、これらの特徴的な電子物性について、その基本的な概念を習得するとともに、物理的内容を理解し、説明できることを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
電子論、固体物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝導電子の量子力学的取り扱いとBloch理論 2. 固体の電子構造(金属、半導体、絶縁体) 3. Drude理論による電子物性の定式化 4. Boltzmann輸送方程式による電子物性の定式化 5. 金属材料、半導体材料において観測される電子物性 6. 超伝導現象 7. 超伝導の現象論、G-L理論 8. 超伝導の磁気的性質 9. 第II種超伝導体と混合状態 10. ペン止め効果と臨界状態モデル 11. 超伝導の応用 		
●教科書		
●参考書		
金属電子論(上)、水谷宇一郎(内田老鶴園) 固体物理の基礎(上1)、アシュクロフト・マーミン(吉岡書店) 超伝導物理入門、御子栄宣夫、鈴木克生(培風館) 超伝導現象、M. ティンカム(小林俊一訳、産業図書)		
●成績評価の方法		
レポートにより目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	
	電子物性学特論II (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年前期	
教員	竹中 康司 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>固体中では、多数の電子が他の電子やフォノンなどの素励起と相互作用しながら運動しており、本質的に多体の量子系である。固体材料の様々な機能は、これら固体中の電子の運動によるところが大きい。本講座では、特に光をプローブとして、この固体中電子の量子状態がいかに理解されるかを学ぶ。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序-光の素性- 2. 複素誘電関数と光学応答 3. 振動モードによる光吸収-分子振動と光学フォノン- 4. 金属の光応答-Drudeモデル 5. バンド間遷移 		
●教科書		
●参考書		
<p>C. Kittel, Introduction to Solid State Physics (John Wiley & Sons, Inc.) F. Wooten, Optical Properties of Solids (Academic Press, 1972)</p>		
●成績評価の方法		
レポートにより目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	磁気物性機能学特論I (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>物質の磁気物性理論を学び、磁気測定法の原理と解析法を習得する。磁気物性応用の最先端研究の動向を学ぶ。達成目標 1) 磁気物性理論の基礎について説明できる。 2) 磁気測定法と解析法の概略を説明できる。 3) 磁気物性応用の最先端研究の説明ができる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質のエネルバンド構造。 2. 物質の磁性、電気的性質、熱的性質、弾性的性質、光学的性質 3. 物質磁性の測定法と解析法 4. 磁気センサーの種類とその応用法 5. 巨大な磁気抵抗効果とスピンエレクトロニクス 		
●教科書		
講義に沿ったプリントを配布する。		
●参考書		
<p>強磁性体の物理：近角聡信著（裳華房）、化合物磁性：安達健五著（裳華房）、固体物理学入門：キッテル著（丸善）固体物理学：川村 肇著（共立全書）など</p>		
●成績評価の方法		
<p>達成目標に対する評価は同等である。 課題レポートで評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	磁気物性機能学特論II (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
磁性薄膜およびそのナノ構造の評価・解析法について講述する。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学、材料結晶学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 磁性薄膜・ナノ構造の評価、解析法、2. スピン分極率とその測定法、3. X線磁気円二色性、4. メスハウアー分光法 		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	機能結晶化学特論I (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	木村 真 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>オプトエレクトロニクスに用いられる材料、特に有機材料とその特徴について学ぶ。題材として、発光素子、表示素子を中心にプラズマ、液晶そして有機EL表示の機能と材料を考え、太陽電池や分子素子に向けて、結晶及び非晶質材料の役割を学ぶ。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
学部レベルの基礎的な無機化学、物理化学と有機化学		
●授業内容		
発光ダイオード、表示デバイスと材料、液晶表示、有機EL表示、耐熱性有機EL材料の分子設計、薄膜太陽電池、分子素子への取り組み		
●教科書		
なし		
●参考書		
授業の都度紹介する。		
●成績評価の方法		
レポート		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	機能結晶化学特論 II (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1 年後期	結晶材料工学専攻 2 年後期
教員	大槻 主税 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
生体の機能修復に利用される無機固体材料(セラミックス)を基礎的に学ぶ。セラミックスの合成法、微細構造や化学結合に基づいた手法を利用して、生体機能を修復する材料の設計について理解する。		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
1. バイオマテリアル(biomaterials)の必要性 2. 人工関節としてのセラミックス 3. 生体活性ガラス 4. 生体活性材料の設計 5. 金属材料への生体活性付与 6. 有機無機ナノハイブリッドによる骨修復材料の創製 7. 生体模倣(バイオミメティック)法による材料の創製 8. 自己修復支援材料		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
筆記試験とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	材料設計化学特論I (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年後期	
教員	鳥本 司 教授 菊田 浩一 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
分子および原子をナノメートルサイズで集積化した化学システムを構築することにより、電子移動および化学反応を自在に制御することができる。本講座では、電気化学的手法に基づく、これらシステムの設計法および評価法を学ぶ。		
達成目標 1. 化学システム構築のための電気化学的手法を理解する。 2. 光エネルギー変換のための化学システムの設計法を理解する。 3. ナノメートルサイズにおける金属および半導体の特性変化を理解する。		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学		
●授業内容		
1. 電気化学系とポテンシャル 2. 電極反応 3. 燃料電池 4. 半導体電極による光エネルギー変換 5. 光触媒 6. ナノ材料における物理化学特性変化		
●教科書		
ベーシック電気化学(化学同人) 大塚利行、加納健司、桑畑 進 著		
●参考書		
●成績評価の方法		
授業中の小テスト(50%)およびレポート(50%)で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		
連絡先 torimoto@apchem.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	材料設計化学特論II (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2 年後期	
教員	鳥本 司 教授 菊田 浩一 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
本講座では、無機材料を中心とした様々な材料について、化学反応、合成方法、微構造制御などの観点から材料の設計を考える。1. 基本的な材料合成法を理解し、説明できる。2. 目的に応じた材料設計の考え方を理解する。3. 機能とその制御について理解する。		
●バックグラウンドとなる科目		
触媒・表面化学、無機合成化学、無機材料化学、構造・電気化学など		
●授業内容		
1. 材料合成法と特徴 2. 材料の機能制御 化学的特性の制御因子 機械的特性の制御因子 電気的特性の制御因子 3. 微構造制御 マクロレベル ナノ、ミクロレベル 4. 材料設計と課題 5. 試験		
●教科書		
プリントを毎週用意する。		
●参考書		
Anthony R. West, Solid State Chemistry and Its Application, John Wiley and Sons Ltd., (1987)		
●成績評価の方法		
課題レポート40%、期末試験60%、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	結晶物性工学特論I (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年前期	
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノテクノロジーの基礎の物理について実際の開発研究を交えて講義する		
●バックグラウンドとなる科目		
固体物理学、量子力学、光学、回折結晶学		
●授業内容		
(1) ナノテクノロジー研究の流れ (2) ナノ材料の原子構造 (3) ナノ材料の電子構造 (4) ナノ材料の特異的性質 (5) ナノ材料の応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭試問		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
	結晶物性工学特論II (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師
備考	
●本講座の目的およびねらい	
電子顕微鏡学、電子回折学	
●バックグラウンドとなる科目	
結晶学、量子力学	
●授業内容	
(1) 電子線の発生 (2) 電子顕微鏡装置 (3) 電子回折 (4) 電子顕微鏡法 (5) 高分解能電子顕微鏡法	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
口頭試問	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
	機能物質工学特論I (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	余語 利信 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
化学プロセスによる無機材料の合成と基本的性質、それらの機能性材料への応用を学ぶ。	
●バックグラウンドとなる科目	
無機化学、物理化学、材料化学	
●授業内容	
1. コロイドとナノ粒子 2. コロイドの合成 3. コロイドの性質 4. 機能性材料の合成と性質	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポートあるいは試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
	機能物質工学特論II (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	坂本 渉 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
結晶性無機固体、特に先端機能性セラミックス材料の合成、プロセッシング、物性と応用について学ぶ。結晶性固体の生成と結晶成長に関する基礎的な理解を深めるとともに、形態および物性の制御法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
無機合成化学、無機材料化学、薄膜・結晶成長論	
●授業内容	
1. 無機材料の機能発現因子 2. 気相からの結晶合成と薄膜作製 3. 液相からの結晶合成と単結晶育成技術 4. 固相反応による結晶合成と焼結 5. セラミックプロセッシング科学	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポートあるいは試験	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	構造物性学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	西場 英治 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
最近の構造物理学の発展として、放射光による構造物理学について学習をする。放射光は、高速に近い電子または陽電子が磁場中を通過するときに放射される電磁波で、構造物理学にも大きな変革をもたらした。放射光を用いた回折物理学の最近の動向および可能性について学習をする。		
達成目標		
1. 放射光発生の基本概念を理解し説明できる。 2. 放射光の特徴を理解し、説明できる。 3. 放射光の利用研究を理解し、例を示して説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、回折物理学1、相対論の初歩		
●授業内容		
1・自然界における放射光 2・シンクロトロン加速器と放射光 3・放射光の特徴 4・放射光と物質科学 5・放射光利用研究 6・今後の動向		
●教科書		
なし		
●参考書		
固体物理学入門, c.キッテル, 放射光結晶学, p.コペンズ, X線回折, B.E.ワレン		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価の重みは、1番20%、2番20%、3番60%である。講義中の質疑40%、レポート評価60%		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	光物性学特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	中村 新男 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
物質の光物性とレーザー分光学を理解するために必要となる光と物質との相互作用、レーザーの知識を習得する。量子論に基づいて、物質による光の吸収と放出の過程を学ぶ。		
達成目標： 1. 量子力学に基づいて光学過程を理解し、説明ができる。 2. 半導体、ナノ構造材料の光物性の基礎を理解し、説明ができる。 3. レーザー分光の原理を理解し、物質の光学評価法を理解できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
固体物理学特論、物理光学、量子力学		
●授業内容		
1. 光学過程の基礎 光学遷移の理論、光の吸収と放出、電磁場の量子化 2. 固体の光物性 バンド構造、反射・吸収、発光、光散乱 3. レーザー分光 分光法、レーザーの原理、非線形分光		
●教科書		
●参考書		
大貫淳聡編著「物性物理学」(朝倉書店)、柳田孝司著「量子光学」(朝倉書店)		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価の重みは同じである。 中間試験20%、授業中の討論20%、レポート課題を60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。 履修条件・注意事項：特になし。 質問への対応：授業終了時または教員室で対応する。 連絡先：789-4450、nakamura@nuap.nagoya-u.ac.jp		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程	前期課程
	磁性体工学特論 (2単位)		
対象専攻・分野 開講時期	電子工学分野 1年後期 2年後期	結晶材料工学専攻 1年後期 2年後期	量子工学専攻 1年後期 2年後期
教員	綱島 滋 教授 岩田 聡 教授 加藤 剛志 准教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
磁性物理、磁性材料、磁性デバイスに関する基礎とその応用について講義する。達成目標 1. 磁性の基礎概念の理解。 2. 強磁性体の磁性特性の理解。 3. 強磁性体の新しい応用例の習得			
●バックグラウンドとなる科目			
電気磁気学、電気物性基礎論、固体電子工学、磁性体工学			
●授業内容			
1. 種々の秩序磁性 2. 磁気異方性と磁気ひずみ 3. 磁区構造と磁化機構 4. 磁性の微視的実験 5. 磁気記録からMRAMまで			
●教科書			
なし			
●参考書			
近角聡信, 強磁性体の物理 (上) (下), 裳華房			
●成績評価の方法			
筆記達成目標に対する評価の重みは同等である。試験8で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	高分子構造・物性論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	松下 裕秀 教授 高野 敏志 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
高分子の構造・物性・機能に分子自身の構造が凝集構造としてどのように反映されているかについて学ぶ。特に複合高分子の構造・物性について掘り下げて学ぶ。		
達成目標：次の各項目の理解と修得 1. 高分子構造観察法及び分子特性評価法 2. 高分子の分子構造と集合構造の関係 3. 高分子複合系の構造と物性 4. 高分子の構造・運動と機能		
●バックグラウンドとなる科目		
熱力学、構造・電気化学、物理化学実験、無機・物理化学実験、無機物理化学演習1、2		
●授業内容		
1. 高分子物性とは 2. 高分子構造観察法の基礎 3. 複合高分子の調製法と分子特性評価法 4. 高分子複合系の構造と物性・機能 5. 高分子の運動と性質		
●教科書		
プリントを用意する。教科書は特に設定しない。		
●参考書		
●成績評価の方法		
課題レポート30%、期末試験70%で評価する。100点満点とし55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義	前期課程
	電気化学プロセス特論 (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	興戸 正純 教授 市野 良一 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
電気化学の基礎的知識を修得し、工業電解、湿式分離、機能性表面改質などの電気化学プロセスへの応用について理解を深める。		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2		
●授業内容		
1. 素材プロセスシグマ (工業電解、電析、分離プロセスなど) 2. エネルギー変換 (電池、水素生成、光電気化学反応など)		
●教科書		
●参考書		
例えば Comprehensive Treatises of Electrochemistry(Conway)		
●成績評価の方法		
レポートあるいは筆記試験		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義 機械材料強度学特論 (2単位)	前期課程	前期課程
対象専攻・分野 開講時期	機械科学分野 1年前期	機械情報システム工学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	巨 賜 教授		
備考			
●本講座の目的およびねらい 機械および材料の強度を支配する力学法則と疲労・破壊の微視的機構を基礎にして機械の破壊制御設計の体系を学ぶ。 達成目的 1. 破壊力学の基礎を理解し、構造に適用できる。 2. 材料のマイクロ構造を基にして破壊および強度の解析ができる。			
●バックグラウンドとなる科目 材料力学および演習 材料科学			
●授業内容 1. 破壊力学 2. 疲労き裂進展の力学 4. 疲労・破壊のマイクロ機構 3. 破壊制御設計			
●教科書 プリントを配布する。			
●参考書			
●成績評価の方法 レポートおよび筆記試験			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義 結晶材料特別講義1A (1単位)		
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期		
教員	非常勤講師 (結晶)		
備考			
●本講座の目的およびねらい 結晶材料工学に関する最新の知識と情報を習得する。			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容 結晶材料工学に関する最新の情報			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法 試験あるいはレポート			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義 結晶材料特別講義1B (1単位)		
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期		
教員	非常勤講師 (結晶)		
備考			
●本講座の目的およびねらい 結晶材料工学に関する最新の知識と情報を習得する。			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容 結晶材料工学に関する最新の情報			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法 試験あるいはレポート			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義 結晶材料特別講義1C (1単位)		
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年前期		
教員	非常勤講師 (結晶)		
備考			
●本講座の目的およびねらい 結晶材料工学に関する最新の知識と情報を習得する。			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容 結晶材料工学に関する最新の情報			
●教科書			
●参考書			
●成績評価の方法 試験あるいはレポート			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
	結晶材料特別講義1D (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	非常勤講師(結晶)
備考	
●本講座の目的およびねらい	結晶材料工学に関する最新の知識と情報を習得する。
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	結晶材料工学に関する最新の情報
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	試験あるいはレポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	結晶デバイス工学特別実験及び演習A (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノスケール構造の半導体デバイスにおける電子輸送や半導体表面・界面で発現する諸現象にたいする基礎的事項の理解を深めると共に、新しいナノスケール構造の半導体デバイスや次世代のプロセス技術を開発するために必要な基礎的手法を修得する。 達成目標 実験から得られたデータについて解析および調査することができ、さらなる独創的な研究を組み立てることができる。
●バックグラウンドとなる科目	物性物理学、物理計測工学、電磁気学、電子工学
●授業内容	1. ナノスケールデバイスにおける電子輸送現象 2. 薄膜成長における表面反応 3. ヘテロ構造界面における結晶学的構造と電気的特性 4. 半導体表面構造と電子状態 5. 表面反応プロセス制御と薄膜成長 6. 半導体結晶の超微細加工とデバイス試作 7. 半導体表面電子状態の原子スケール計測
●教科書	特になし。
●参考書	
●成績評価の方法	口頭試問、レポートおよび実験意欲により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	結晶デバイス工学特別実験及び演習B (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノスケール構造の半導体デバイスにおける電子輸送や半導体表面・界面で発現する諸現象にたいする基礎的事項の理解を深めると共に、新しいナノスケール構造の半導体デバイスや次世代のプロセス技術を開発するために必要な基礎的手法を修得する。 達成目標 実験から得られたデータについて解析および調査することができ、さらなる独創的な研究を組み立てることができる。
●バックグラウンドとなる科目	物性物理学、物理計測工学、電磁気学、電子工学
●授業内容	1. ナノスケールデバイスにおける電子輸送現象 2. 薄膜成長における表面反応 3. ヘテロ構造界面における結晶学的構造と電気的特性 4. 半導体表面構造と電子状態 5. 表面反応プロセス制御と薄膜成長 6. 半導体結晶の超微細加工とデバイス試作 7. 半導体表面電子状態の原子スケール計測
●教科書	特になし。
●参考書	
●成績評価の方法	口頭試問、レポートおよび実験意欲により評価する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	ナノ材料デバイス特別実験及び演習A (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスに関する新しい研究テーマを院生がそれぞれ選択あるいは提案し、これを実験的にあるいは理論的に進め、修士論文としてまとめる。
●バックグラウンドとなる科目	半導体ナノ材料科学特論、ナノ材料デバイスセミナー
●授業内容	ナノ材料デバイスに関する新しい研究テーマを院生がそれぞれ選択あるいは提案し、これを実験的にあるいは理論的に進める
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	研究の進め方、進行状況、発表内容

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	ナノ材料デバイス特別実験及び演習B (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスに関する新しい研究テーマを院生がそれぞれ選択あるいは提案し、これを実験的あるいは理論的に進め、修士論文としてまとめる。ナノ材料デバイス特別実験及び演習Aを継続、進展させる。
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイス特別実験及び演習A
●授業内容	ナノ材料デバイス特別実験及び演習Aを継続、進展させる。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	研究の進め方、進行状況、発表内容

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	電子物性工学特別実験及び演習A (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	機能性材料が発現する様々な電子物性の機構を明らかにする基礎研究、もしくはそれらの機能を利用した応用研究に携わる。これにより、様々な実験技術を習得するとともに、実験的研究の手法を学ぶことを目標とする。
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学
●授業内容	超伝導、強相関物質、準結晶・非晶質合金などの電子輸送現象・磁性・熱力学的手法による実験的研究。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	実験の進め方や、得られた結果の議論を通して、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	電子物性工学特別実験及び演習B (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	機能性材料が発現する様々な電子物性の機構を明らかにする基礎研究、もしくはそれらの機能を利用した応用研究に携わる。これら実験的研究を通して、新規の電子物性の解明やその応用手法を習得することを目標とする。
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学
●授業内容	超伝導、強相関物質、準結晶・非晶質合金などの電子輸送現象・磁性・熱力学的手法による実験的研究
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	実験の進め方や、得られた結果の議論を通して、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	磁気物性機能学特別実験及び演習A (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	浅野 秀文 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	各種バルク試料作製法ならびに原子層制御の磁性人工格子、超薄膜、多層膜、磁気ナノ超微粒子の設計・作製法ならびに微細加工法を学ぶ。達成目標 1) バルク試料を作製できる。 2) 磁性人工格子、超薄膜を作製できる。 3) 微細加工ができる。
●バックグラウンドとなる科目	電磁気学A、結晶物理学、材料物性学、材料物理学、磁性材料学
●授業内容	1. 各種バルク試料作製 2. 磁性人工格子、超薄膜試料作製 3. 超微粒子作製 4. 微細加工による強磁性トンネル接合作製 5. 表面・界面構造評価
●教科書	毎回プリントを配布する。
●参考書	
●成績評価の方法	達成目標に対する評価は同等である。 課題レポートで評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	磁気物性機能学特別実験及び演習 B (1 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年後期
教員	浅野 秀文 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
バルク材料、ナノ構造物質の物性評価法、磁気測定法ならびにその解析法を習得する。 達成目標 1) バルク材料、ナノ構造物質の物性評価ができる。2) バルク材料、ナノ構造物質の磁気測定ができる。3) 物性測定と磁気測定結果を解析できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
電磁気学 A、結晶物理学、材料物性学、材料物理学、磁性材料学	
●授業内容	
1. 薄膜 X 線結晶構造解析 2. 微量磁気測定と解析法 3. メスbauer 効果測定法及び解析法 4. 磁気伝導効果測定法及び解析法	
●教科書	
毎回プリントを配布する。	
●参考書	
●成績評価の方法	
達成目標に対する評価は同等である 課題レポートで評価し、100 点満点で 55 点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	機能結晶化学特別実験及び演習 A (1 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年前期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
人工骨や人工歯を開発する上で必要となる無機固体材料（セラミックス）の生体機能について基礎的に理解するとともに、その原理を応用してセラミック医用材料（バイオマテリアル）の創製に必要な技術について、実験実習により理解を深め、医用セラミックスの合成と解析に関する研究手法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学	
●授業内容	
1. セラミックスの合成 2. ガラスの合成 3. 材料の微構造解析 4. 材料の物性測定	
●教科書	
なし	
●参考書	
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.	
●成績評価の方法	
授業への参加態度とレポート課題による評価	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	機能結晶化学特別実験及び演習 B (1 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年後期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
人工骨や人工歯を開発する上で必要となる無機固体材料（セラミックス）の生体機能について基礎的に理解するとともに、その原理を応用してセラミック医用材料（バイオマテリアル）の創製に必要な技術について、実験実習により理解を深め、医用セラミックスの合成と解析に関する研究手法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学	
●授業内容	
1. 結晶化ガラスの合成 2. ソル-ゲル法による有機-無機ハイブリッドの合成 3. 結晶化ガラスの微構造解析 4. ハイブリッド材料の物性測定	
●教科書	
なし	
●参考書	
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.	
●成績評価の方法	
授業への参加態度とレポート課題による評価	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習
	材料設計化学特別実験及び演習 A (1 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年前期
教員	鳥本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明するとともに、電気化学的手法を用いて効率の良いエネルギー変換システムを構築する。 達成目標 1. 材料のサイズをナノメートル領域で制御し、その物理化学特性を解明する。 2. 種々の機能材料を組み合わせることで電気化学システムを構築し、その特性を評価する。	
●バックグラウンドとなる科目	
物理化学、電気化学、触媒化学	
●授業内容	
1. 電気化学測定による物性評価 2. 太陽電池作製 3. 光触媒の調製 4. ナノ構造制御による機能材料設計 5. 光電気化学特性の解明	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート提出および口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。 100 点満点で 55 点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	前期課程
	材料設計化学特別実験及び演習B (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期	応用化学分野
教員	島本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明するとともに、電気化学的手法を用いて効率の良いエネルギー変換システムを構築する。達成目標 1. 材料のサイズをナノメートル領域で制御し、その物理化学特性を解明する。 2. 種々の機能材料を組み合わせることで電気化学システムを構築し、その特性を評価する。		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学、電気化学、触媒化学		
●授業内容		
1. 電気化学測定による物性評価 2. 太陽電池作製 3. 光触媒の調製 4. ナノ構造制御による機能材料設計 5. 光電気化学特性の解明		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート提出および口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	前期課程
	結晶物性工学特別実験及び演習A (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノ構造材料の構造と物性に関する高度な実験研究指導		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
論文審査、口頭試問		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	前期課程
	結晶物性工学特別実験及び演習B (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期	
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
電子線をもちいた種々の構造解析法および物性測定法に関する高度な実験研究指導		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
論文審査、口頭試問		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習	前期課程
	機能物質工学特別実験及び演習A (1単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	余話 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能性物質の合成法とその物性評価・応用技術について理解を深める。さらに、機能性物質の合成と評価に関する基礎的な実験技術を習得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
1. 機能性材料の合成 2. 機能性材料の物性評価 3. 機能性材料の応用技術		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 実験及び演習 機能物質工学特別実験及び演習 B (1 単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1 年後期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい	
機能物質工学特別実験及び演習Aに引き続き、機能性物質の合成法とその物性評価法・応用技術について理解を深める。さらに、機能性物質の合成と物性評価法について基礎的な実験手法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	
1. 機能性物質の合成 2. 機能性物質の評価技術 3. 機能性物質の応用技術	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実験及び演習 高度総合工学創造実験 (3 単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1 年前期後期 2 年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
異なる専門分野からなる数人のチームを編制し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。その目的およびねらいは ・異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化 ・異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験 ・自己専門の可能性と限界の認識 ・自らの能力で知識を総合化することである。	
●バックグラウンドとなる科目	
「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。また、「ベンチャービジネス特論I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」は産学連携教育関連科目と位置づけられる。これらの科目の履修を強く推奨する。	
●授業内容	
異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編制し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月)〔週1日〕にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
実験の遂行、討論と発表会	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習 研究インターンシップ (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1 年前期後期 2 年前期後期
教員	田中 英一 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。	
●バックグラウンドとなる科目	
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。	
●授業内容	
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める ・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習 研究インターンシップ (3 単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1 年前期後期 2 年前期後期
教員	田中 英一 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。	
●バックグラウンドとなる科目	
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。	
●授業内容	
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める ・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。	
●教科書	
なし	
●参考書	
なし	
●成績評価の方法	
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習 研究インターンシップ (4単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	田中 英一 教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論」または「同II」を受講することが強く推奨される。</p>	
<p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。 	
<p>●教科書</p> <p>なし</p>	
<p>●参考書</p> <p>なし</p>	
<p>●成績評価の方法</p> <p>企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上のもに与えられる。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 講義 最先端理工学特論 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	田沼 雅夫 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p>	
<p>●授業内容</p> <p>最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。</p>	
<p>●教科書</p>	
<p>●参考書</p>	
<p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実験 最先端理工学実験 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	山根 隆 教授 田沼 雅夫 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な実験に関する技術を習得することを目的とする。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p>	
<p>●授業内容</p> <p>あらかじめ設定された実験(課題実験)あるいは受講者が提案する実験(独創実験)のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。</p>	
<p>●教科書</p>	
<p>●参考書</p>	
<p>●成績評価の方法</p> <p>演習(50%)、研究成果発表とレポート(50%)で評価する。100点満点で55点以上を合格とする</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 講義 コミュニケーション学 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	古谷 礼子 准教授
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。</p>	
<p>●バックグラウンドとなる科目</p>	
<p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ビデオ録画された論文発表を見る モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ (2) 発表する クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する (3) 討論する クラスメイトの発表を相互に評価し合う きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす 	
<p>●教科書</p> <p>なし</p>	
<p>●参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「英語プレゼンテーションの技術」 安田 正、ジャック ニクリン著 The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成 口頭発表の準備の手続き」 産能短期大学日本語教育研究室著 凡人社 	
<p>●成績評価の方法</p> <p>発表論文とclass discussion(平常点)の結果による</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
対象専攻・分野 開講時期	実践科学技術英語 (2 単位) 全専攻・分野共通 1年前期 2年前期
教員	石田 幸男 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	英語で行われる自動車工学の最先端技術の講義を留学生とともに学ぶことによって、実践的な科学技術英語を習得するとともに、英語で小テーマについて発表し、議論することによって、プレゼンテーション技術を学ぶ。達成目標 1. 英語で行われる自動車工学の講義を理解できる。 2. 技術的テーマについて取りまとめ、英語で説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	コミュニケーション学、科学技術英語特論
●授業内容	1. 自動車産業の現状 2. ドライバ選行動の観察と評価 3. 自動車の材料・加工技術 4. 自動車の運動・制御 5. 自動車の予防安全 6. 自動車の衝突安全 7. 車搭載組込みコンピュータシステム 8. 自動車における通信技術 9. 自動車開発におけるCAE活用状況 10. 自動車における省エネルギー技術 11. 環境にやさしい燃料と自動車燃焼 12. リサイクル 13. 自動車工業における生産システム 14. 15. 研究プロジェクト発表 (2回に分けて行う)
●教科書	毎回プリントを配布する。
●参考書	講義の進行に合わせて適宜紹介する。
●成績評価の方法	評価方法：講義での出席と質疑 (20%) 講義毎のレポート提出 (20%) グループ研究でのプレゼンテーション (30%) グループ研究でのレポート提出 (30%) 履修条件・注意事項等：受講人数制限あり (留学生約15名、名大生約15名) 工場見学にも参加すること。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
対象専攻・分野 開講時期	ベンチャービジネス特論I (2 単位) 全専攻・分野共通 1年前期 2年前期
教員	田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の事例を示す。
●バックグラウンドとなる科目	卒業研究、修士課程の研究
●授業内容	1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ---リスクとメリット--- 2. 事業化と起業の知識と準備 ---技術者・研究者として抑えるべきポイント--- 3. 大学の研究から事業化・起業へ ---企業における研究開発の進め方--- 4. 事業化の促進 ---事業化のための様々な交渉と市場調査--- 5. 名大発の事業化と起業(1)：電子デバイス分野 6. 名大発の事業化と起業(2)：金属、材料分野 7. 名大発の事業化と起業(3)：バイオ、医療分野 8. 名大発の事業化と起業(4)：加工装置分野 9. 名大発の事業化と起業(4)：化学分野 10. まとめ
●教科書	「ベンチャー経営心得帳」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ その他、適宜資料配布
●参考書	適宜指導
●成績評価の方法	レポート提出および出席

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 講義
対象専攻・分野 開講時期	ベンチャービジネス特論II (2 単位) 全専攻・分野共通 1年後期 2年後期
教員	田淵 雅夫 准教授 枝川 明敏 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	前期Iにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の事例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家を交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解してもらう。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Iを受講するのが望ましい。
●バックグラウンドとなる科目	ベンチャービジネス特論I、卒業研究、修士課程の研究、経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。
●授業内容	1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーと経営戦略 4. ベンチャーとマーケティング戦略 5. ベンチャーと企業会計 6. ベンチャーと財務戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点)- IPO企業) 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ 15. まとめ
●教科書	適宜資料配布
●参考書	適宜指導
●成績評価の方法	授業中に出席される課題

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工科学目 実習	前期課程 前期課程 前期課程
対象専攻・分野 開講時期	学外実習A (1 単位) 結晶材料工学専攻 1年前期後期 2年前期後期	量子工学専攻 1年前期後期 2年前期後期
教員	各教員 (結晶材料) 各教員 (量子工学) 各教員 (物質制御)	物質制御工学専攻 1年前期後期 2年前期後期
備考		
●本講座の目的およびねらい	学外の民間企業、研究所等において一定期間の実習を行うことにより、実社会において工学の実践を体験する。大学内とは異なる環境において工学と社会との関わりを学ぶとともに、基礎学問の重要性を再認識する。	
●バックグラウンドとなる科目	工学の基礎および各自の専門分野	
●授業内容	1.	
●教科書	特に指定しない、実社会が教科書である。	
●参考書	特に指定しない。	
●成績評価の方法	口頭発表およびレポート	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習	前期課程	前期課程
	学外実習B (1単位)		
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期後期 2年前期後期	物質制御工学専攻 1年前期後期 2年前期後期	計算理工学専攻 1年前期後期 2年前期
教員	各教員 (結晶材料) 各教員 (物質制御) 各教員 (計算理工)		
備考			
●本講座の目的およびねらい			
学外の民間企業、研究所等において一定期間の実習を行うことにより、実社会において工学の実践を体験する。大学内とは異なる環境において工学と社会との関わりを学ぶとともに、基礎学問の重要性を再認識する。			
●バックグラウンドとなる科目			
工学の基礎および各自の専門分野			
●授業内容			
●教科書			
特に指定しない。実社会が教科書である。			
●参考書			
特に指定しない。			
●成績評価の方法			
口頭発表およびレポート			

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
本セミナーは、輪講と雑誌会によって構成される。輪講は、半導体デバイスおよび半導体材料の研究を行うために必要な半導体物性や固体物理の基礎を習得することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。 達成目標 半導体材料の諸特性について理解できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学		
●授業内容		
1. エネルギーバンドの特性 1-1. エネルギーバンド計算 1-2. エネルギーバンドにおける状態密度 1-3. 電子移動度と有効質量 1-4. バンドモデルと電気的特性 1-5. 実際の結晶におけるエネルギーバンド 1-6. エキシトンとポラロン 1-7. バンドと結合 (電気伝導性、結合長) 2. キャリア輸送 2-1. 波束を用いた粒子移動の記述 2-2. ボルツマン方程式とその解 2-3. 緩和時間近似における電気伝導率 2-4. 半導体と金属の電気伝導率 2-5. 電子による熱伝導率 2-6. 熱電効果		
●教科書		
R. H. Bube, "Electronic Properties of Crystalline Solids" 等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
本セミナーは、輪講と雑誌会によって構成される。輪講は、半導体デバイスにおける電子輸送や半導体表面・界面で発現する諸現象等を基礎物理に基づいて理解することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。 達成目標 1. 半導体デバイスの基本的動作を理解できる。 2. 実際の半導体デバイスにおける問題点を理解できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電気回路		
●授業内容		
1. 理想MISダイオード 2. 表面空間電荷領域 3. 理想MISダイオードの特性 4. Si-SiO ₂ MOSダイオード 5. 界面単位電荷 6. 界面単位電荷分布の測定法: キャパシタンス法 7. 界面単位電荷分布の測定法: コングダクタンス法 8. MISダイオードの等価回路 9. 酸化膜中の電荷 10. 仕事関数差の影響 11. 反転層キャリアの振舞い 12. 絶縁破壊現象 13. 電気伝導機構		
●教科書		
S. M. Sze, "Physics of Semiconductor Devices", (John Wiley & Sons) 等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
本セミナーは、輪講と雑誌会によって構成される。輪講は、半導体デバイスおよび半導体材料の研究を行うために必要な半導体物性や固体物理の基礎を習得することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑誌会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。 達成目標 半導体材料の諸特性について説明できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学		
●授業内容		
1. エネルギーバンドの特性 1-1. エネルギーバンド計算 1-2. エネルギーバンドにおける状態密度 1-3. 電子移動度と有効質量 1-4. バンドモデルと電気的特性 1-5. 実際の結晶におけるエネルギーバンド 1-6. エキシトンとポラロン 1-7. バンドと結合 (電気伝導性、結合長) 2. キャリア輸送 2-1. 波束を用いた粒子移動の記述 2-2. ボルツマン方程式とその解 2-3. 緩和時間近似における電気伝導率 2-4. 半導体と金属の電気伝導率 2-5. 電子による熱伝導率 2-6. 熱電効果		
●教科書		
R. H. Bube, "Electronic Properties of Crystalline Solids" 等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>本セミナーは、輪講と雑談会によって構成される。輪講は、半導体デバイスにおける電子輸送や半導体表面・界面で発現する種現象等を基礎物理に基づいて理解することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑談会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半導体デバイスの基本的動作を理解できる。 2. 実際の半導体デバイスにおける問題点を理解できる。 		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電気回路		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理想MISダイオード 2. 真空空間電荷領域 3. 理想MISダイオードの特性 4. Si-SiO₂ MISダイオード 5. 界面単位電荷 6. 界面単位密度分布の測定法：キャパシタンス法 7. 界面単位密度分布の測定法：コンダクタンス法 8. MISダイオードの等価回路 9. 酸化膜中の電荷 10. 仕事関数差の影響 11. 反転層キャリアの振舞い 12. 絶縁破壊現象 13. 電気伝導機構 		
●教科書		
S. M. Sze, "Physics of Semiconductor Devices", (John Wiley & Sons) 等		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する。		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶デバイスセミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	財満 顕明 教授 中塚 理 講師 坂下 満男 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>本セミナーは、輪講と雑談会によって構成される。輪講は、低次元系半導体デバイスにおける電子輸送現象等を基礎物理に基づいて理解することを目的とし、教科書を用いて輪講・発表を行う。また、雑談会は研究テーマに関連した論文を取り上げ、その研究分野の基礎や応用について理解し、視野を広げる。</p> <p>達成目標</p> <p>低次元系半導体デバイスの動作を説明できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物性物理学、量子力学、熱・統計力学、電磁気学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 井戸型、二次関数型および三角型ポテンシャルの波動関数 2. 低次元系について 3. サブバンドの形成 4. 二、三次元の井戸型ポテンシャル 5. ヘテロ構造での量子 井戸 6. トンネル遷移について 7. マトリックス 8. トンネルによる電流と伝導度 9. 超格子とミニバンド 10. ヘテロ構造におけるトンネル 		
●教科書		
●参考書		
必要に応じてセミナーで紹介する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答、および聴講時の参加意欲により評価する。参考文献を読むなど、幅広い学習に心がけること。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>将来において問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
ナノ材料デバイスセミナー1A~1D、半導体ナノ材料学特論、ナノデバイス工学特論		
●授業内容		
受講者の博士論文のテーマおよびその時々において将来課題となると考えられる新しい半導体ナノ材料、ナノデバイスに関連する諸問題の中から小テーマを選択する。		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート、発表、討論		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノ材料デバイスセミナー2Aに同じ		
●バックグラウンドとなる科目		
ナノ材料デバイスセミナー2A		
●授業内容		
ナノ材料デバイスセミナー2Aに続く		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
レポート、発表、討論		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー2C	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスセミナー2Aに同じ	
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイスセミナー2A、2B	
●授業内容	ナノ材料デバイスセミナー2Bに続く	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート、発表、討論	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー2D	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスセミナー2Aに同じ	
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイスセミナー2A、2B、2C	
●授業内容	ナノ材料デバイスセミナー2Cに続く	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート、発表、討論	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	ナノ材料デバイスセミナー2E	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	竹田 美和 教授 田淵 雅夫 准教授 宇治原 徹 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	ナノ材料デバイスセミナー2A～2Dのまとめ	
●バックグラウンドとなる科目	ナノ材料デバイスセミナー2A～2D	
●授業内容	ナノ材料デバイスセミナー2A～2Dをまとめる	
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法	レポート、発表、討論	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー2A	(2単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい	種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な学力を深めるとともに、自身の研究成果も含めた幅広い知見により、様々な電子物性の発現機構を明らかにする力を身につけることを目標とする。	
●バックグラウンドとなる科目	量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金 	
●教科書	なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。	
●参考書	金属電子論上・下、水谷守一郎(内田老鶴園) 高温超伝導体の物性、内野倉園光他(培風館) 他は随時指定する	
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー2B (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な学力を深めるとともに、自身の研究成果も含めた幅広い知見により、様々な電子物性の発現機構を明らかにする力を身につけることを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷字一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な学力を深めるとともに、自身の研究成果も含めた幅広い知見により、様々な電子物性の発現機構を明らかにする力を身につけることを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷字一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な学力を深めるとともに、自身の研究成果も含めた幅広い知見により、様々な電子物性の発現機構を明らかにする力を身につけることを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷字一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	電子物性工学セミナー2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用物理学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	生田 博志 教授 竹中 康司 准教授 竹内 恒博 准教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
種々の機能性材料が発現する様々な電子物性を最新の文献を精読することで習得し、関連分野の研究動向について理解する。さらに、その内容をセミナーにおいて発表し、議論を通して一層の理解を深める。これにより、機能性材料の電子物性の研究に必要な学力を深めるとともに、自身の研究成果も含めた幅広い知見により、様々な電子物性の発現機構を明らかにする力を身につけることを目標とする。		
●バックグラウンドとなる科目		
量子力学、熱・統計力学、電磁気学、電子論、固体物理学		
●授業内容		
1. 固体電子論 2. 電子輸送現象・磁性・熱統計力学 3. 超伝導 4. 強相関物質 5. 準結晶・非晶質合金		
●教科書		
なし。セミナーに用いる論文はその都度選定する。		
●参考書		
金属電子論上・下、水谷字一郎（内田老鶴園） 高温超伝導体の物性、内野倉園光他（培風館） 他は随時指定する		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー2A	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1 年前期	結晶材料工学専攻 1 年前期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
磁気物性の基礎とデバイスへの応用について、工学全般（物理、化学、電気、機械）的に評価する（磁気工学）ことを学ぶ。磁気物性の新奇な創造的応用法を提案できる。 達成目標 1) 磁気物性の基礎と応用について、多面的に説明することができる。 2) 材料物性と磁気物性の新奇応用について提案できる。 3) 磁気工学の分野で研究指導ができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1D		
●授業内容		
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法 2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用 3. 物質のCMRのデバイスへの応用 4. 薄膜のメスbauer効果 5. リソグラフィ 6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。 課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー2B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 1 年後期	結晶材料工学専攻 1 年後期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
磁気物性の基礎とデバイスへの応用について、工学全般（物理、化学、電気、機械）的に評価する（磁気工学）ことを学ぶ。磁気物性の新奇な創造的応用法を提案できる。 達成目標 1) 磁気物性の基礎と応用について、多面的に説明することができる。 2) 材料物性と磁気物性の新奇応用について提案できる。 3) 磁気工学の分野で研究指導ができる		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1D、磁気物性機能学セミナー2A		
●授業内容		
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法 2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用 3. 物質のCMRのデバイスへの応用 4. 薄膜のメスbauer効果 5. リソグラフィ 6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。 課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー2C	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2 年前期	結晶材料工学専攻 2 年前期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
磁気物性の基礎とデバイスへの応用について、工学全般（物理、化学、電気、機械）的に評価する（磁気工学）ことを学ぶ。磁気物性の新奇な創造的応用法を提案できる。 達成目標 1) 磁気物性の基礎と応用について、多面的に説明することができる。 2) 材料物性と磁気物性の新奇応用について提案できる。 3) 磁気工学の分野で研究指導ができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1D、磁気物性機能学セミナー2A～2B		
●授業内容		
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法 2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用 3. 物質のCMRのデバイスへの応用 4. 薄膜のメスbauer効果 5. リソグラフィ 6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。 課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー2D	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 2 年後期	結晶材料工学専攻 2 年後期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
磁気物性の基礎とデバイスへの応用について、工学全般（物理、化学、電気、機械）的に評価する（磁気工学）ことを学ぶ。磁気物性の新奇な創造的応用法を提案できる。 達成目標 1) 磁気物性の基礎と応用について、多面的に説明することができる。 2) 材料物性と磁気物性の新奇応用について提案できる。 3) 磁気工学の分野で研究指導ができる。		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1D、磁気物性機能学セミナー2A～2C		
●授業内容		
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法 2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用 3. 物質のCMRのデバイスへの応用 4. 薄膜のメスbauer効果 5. リソグラフィ 6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。 課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	磁気物性機能学セミナー2B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	材料工学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	浅野 秀文 教授	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>磁気物性の基礎とデバイスへの応用について、工学全般（物理、化学、電気、機械）的に評価する（磁気工学）ことを学ぶ。磁気物性の新奇な創造的応用法を提案できる。</p> <p>達成目標 1) 磁気物性の基礎と応用について、多面的に説明することができる。</p> <p>2) 材料物性と磁気物性の新奇応用について提案できる。</p> <p>3) 磁気工学の分野で研究指導ができる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A～1D、磁気物性機能学セミナー2A～2D		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法 2. 磁性接合のQMRとTMRのデバイスへの応用 3. 物質のQMRのデバイスへの応用 4. 薄膜のメスbauer効果 5. リソグラフィ 6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用 		
●教科書		
毎回プリントを配布して、課題について討論する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
達成目標に対する評価は同等である。課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 2A	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>無機固体材料（セラミックス）の生体機能の解析方法についてより深く理解し、その原理を応用して種々の医用材料（バイオマテリアル）の創製に展開する研究能力を身につける。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. バイオマテリアル (Biomaterials) の必要性 2. バイオマテリアルの定義と要求される性能 3. セラミックスの定義と焼結現象 4. セラミックスの合成プロセス 5. セラミックスの構造と物性 		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 2B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>無機固体材料（セラミックス）の生体機能の解析方法についてより深く理解し、その原理を応用して種々の医用材料（バイオマテリアル）の創製に展開する研究能力を身につける。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 相図とガラスの形成 2. ガラスの構造と物性 3. 液相からの結晶の析出 4. 結晶化ガラスの合成方法 5. 生体内におけるガラスの表面反応 		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 2C	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>無機固体材料（セラミックス）の生体機能の解析方法についてより深く理解し、その原理を応用して種々の医用材料（バイオマテリアル）の創製に展開する研究能力を身につける。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
無機化学、無機材料化学、物理化学、分析化学、高分子科学		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液とガラスの反応プロセスの解析手法 2. 生体活性なバイオマテリアルの設計 3. 生体模倣（バイオミメティック）の考え方 		
●教科書		
なし		
●参考書		
Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.		
●成績評価の方法		
授業への参加態度とレポート課題による評価		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 2D	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	無機固体材料（セラミックス）の生体機能の解析方法についてより深く理解し、その原理を応用して種々の医用材料（バイオマテリアル）の創製に展開する研究能力を身につける。	
●バックグラウンドとなる科目	無機化学, 無機材料化学, 物理化学, 分析化学, 高分子科学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 有機-無機ハイブリッド セラミックスを用いる増殖療法 再生医療における生体材料の役割 	
●教科書	なし	
●参考書	Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.	
●成績評価の方法	授業への参加態度とレポート課題による評価	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能結晶化学セミナー 2B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	大槻 主税 教授 菊田 浩一 准教授 川内 義一郎 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	無機固体材料（セラミックス）の生体機能の解析方法についてより深く理解し、その原理を応用して種々の医用材料（バイオマテリアル）の創製に展開する研究能力を身につける。	
●バックグラウンドとなる科目	無機化学, 無機材料化学, 物理化学, 分析化学, 高分子科学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 医療と材料技術 生命倫理と医療材料 医工連携と生体材料研究 	
●教科書	なし	
●参考書	Principles of Ceramics Processing, 2nd Edition, J. S. Reed, John Wiley & Sons, Inc. 1995. Introduction to Bioceramics, Ed. By L. L. Hench and J. Wilson, World Scientific, Singapore, 1993.	
●成績評価の方法	授業への参加態度とレポート課題による評価	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 2A	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年前期	結晶材料工学専攻 1年前期
教員	鳥本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率的な良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を輪読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。 達成目標 1. 電気化学的手法に基づき、エネルギー変換システムを具体的に設計できる。 2. 独自のアイデアと既存の原理を組み合わせて、新規システムを創製する	
●バックグラウンドとなる科目	物理化学, 電気化学, 触媒化学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 電気化学測定法 光電気化学 太陽電池 光触媒 ナノ構造制御による機能材料設計 	
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書		
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 2B	(2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1年後期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	鳥本 司 教授 木村 真 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい	界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率的な良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を輪読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。 達成目標 1. 電気化学的手法に基づき、エネルギー変換システムを具体的に設計できる。 2. 独自のアイデアと既存の原理を組み合わせて、新規システムを創製する	
●バックグラウンドとなる科目	物理化学, 電気化学, 触媒化学	
●授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 電気化学測定法 光電気化学 太陽電池 光触媒 ナノ構造制御による機能材料設計 	
●教科書	輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。	
●参考書		
●成績評価の方法	セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 2C (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年前期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	鳥本 司 教授 木村 眞 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率の良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を輪読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理論的に予想できる。2. 独自のアイデアと既存の原理を組み合わせて、新規システムを創製する</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学, 電気化学, 触媒化学		
●授業内容		
1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 2D (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2年後期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	鳥本 司 教授 木村 眞 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率の良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を輪読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理論的に予想できる。2. 独自のアイデアと既存の原理を組み合わせて、新規システムを創製する</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学, 電気化学, 触媒化学		
●授業内容		
1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	材料設計化学セミナー 2E (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	鳥本 司 教授 木村 眞 准教授 岡崎 健一 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
<p>界面で起こる現象を分子および原子レベルで解明し効率の良いエネルギー変換システムを構築するために、必要な教科書や文献を輪読・発表し、電気化学を基礎とした材料設計法および評価法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。達成目標 1. 材料物性に関するナノメートルサイズでの変化を理論的に予想できる。2. 独自のアイデアと既存の原理を組み合わせて、新規システムを創製し効率を予想できる。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
物理化学, 電気化学, 触媒化学		
●授業内容		
1. 電気化学測定法 2. 光電気化学 3. 太陽電池 4. 光触媒 5. ナノ構造制御による機能材料設計		
●教科書		
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。		
●参考書		
●成績評価の方法		
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	結晶物性工学セミナー 2A (2単位)	
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年前期	
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
ナノ材料に関連する博士論文のテーマを設定し、主体的な研究および発表ができる研究者の育成をめざす。		
●バックグラウンドとなる科目		
結晶物性工学セミナー1, 結晶物性工学, 量子物性学		
●授業内容		
1. ナノ材料の分類 2. ナノ材料の作製法 3. ナノ材料の評価法 4. ナノ材料の応用		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		
口頭質問		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 結晶物性工学セミナー2B (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 1年後期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい 博士論文のテーマを設定し、主体的な研究および発表ができる研究者の育成をめざす。	
●バックグラウンドとなる科目 結晶物性工学セミナー1, 結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容 1. 相転移と臨界現象 2. 結晶および液晶の相転移 3. 微結晶の原子構造 4. 微結晶の電子構造	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口頭試問	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 結晶物性工学セミナー2C (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年前期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい 高分解能電子顕微鏡法および電子回折法に関連する博士論文のテーマを設定し、主体的な研究および発表ができる研究者の育成をめざす。	
●バックグラウンドとなる科目 結晶物性工学セミナー1, 結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容 1. ナノ材料の分類 2. ナノ材料の作成法 3. ナノ材料の評価法 4. ナノ材料の応用	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口頭試問	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 結晶物性工学セミナー2D (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 2年後期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい 博士論文のテーマを設定し、主体的な研究および発表ができる研究者の育成をめざす。	
●バックグラウンドとなる科目 結晶物性工学セミナー1, 結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容 1. 相転移と臨界現象 2. 結晶および液晶の相転移 3. 微結晶の原子構造 4. 微結晶の電子構造	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口頭試問	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 結晶物性工学セミナー2E (2単位)
対象専攻・分野 開講時期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	田中 信夫 教授 齋藤 晃 講師 山崎 順 助教
備考	
●本講座の目的およびねらい 博士論文のテーマを設定し、主体的な研究および発表ができる研究者の育成をめざす。	
●バックグラウンドとなる科目 結晶物性工学セミナー1, 結晶物性工学, 量子物性学	
●授業内容 1. 相転移と臨界現象 2. 結晶および液晶の相転移 3. 微結晶の原子構造 4. 微結晶の電子構造	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法 口頭試問	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 2A (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1 年前期	結晶材料工学専攻 1 年前期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能性材料に関する各分野の研究を理解するとともに、博士論文を作成するために必要な新規な研究課題を設定する能力を養う。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 1D		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 2B (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 1 年後期	結晶材料工学専攻 1 年後期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 2Aに引き続き、機能性材料に関する各分野の研究を理解するとともに、博士論文を作成するのに必要な新規な研究課題を設定する能力を養う。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 2A		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 2C (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2 年前期	結晶材料工学専攻 2 年前期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 2Bに引き続き、機能性材料に関する各分野の研究を理解するとともに、博士論文を作成するために必要な新規な研究課題を設定する能力と独創的な研究手法を創出する力を養う。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 2B		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー	前期課程
	機能物質工学セミナー 2D (2 単位)	
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 2 年後期	結晶材料工学専攻 2 年後期
教員	余語 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 2Cに引き続き、機能性材料に関する各分野の研究を理解するとともに、博士論文を作成するのに必要な独創的な研究手法を創出する力を養う。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 2C		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー 機能物質工学セミナー 2E (2単位)	前期課程
対象専攻・分野 開講時期	応用化学分野 3年前期	結晶材料工学専攻 3年前期
教員	余 誦 利信 教授 坂本 渉 准教授 守谷 誠 助教	
備考		
●本講座の目的およびねらい		
機能物質工学セミナー 2Dに引き続き、機能性材料に関する各分野の研究を理解するとともに、博士論文を作成するために必要な独自の研究手法を創出する力を養う。		
●バックグラウンドとなる科目		
機能物質工学セミナー 2D		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●成績評価の方法		

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 総合工科学目 実習 実験指導体験実習 1 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間で立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立つ。	
●バックグラウンドとなる科目	
特になし。	
●授業内容	
高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
とりまとめと指導性	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 総合工科学目 実習 実験指導体験実習 2 (1単位)
対象専攻・分野 開講時期	全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期
教員	山根 隆 教授 田淵 雅夫 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、受講生の実験指導を通じて、後期課程学生の研究・教育及び指導者としての養成に役立つ。	
●バックグラウンドとなる科目	
特になし。	
●授業内容	
最先端理工学実験において、担当教官の下で課題研究および独創研究の指導を行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	